



活動報告2015/2016

Activities Report 2015/2016

日本工学アカデミーの使命

社団法人日本工学アカデミーは、広く学界、産業界及び国の機関等において、工学及び科学技術並びにこれらと密接に関連する分野に関し、顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的人材によって構成されており、工学及び科学技術全般の進歩及びこれらと社会との関係の維持向上を図るため、下記の諸活動を通じて、我が国ひいては世界の発展に資することを目的とする。

記

- 1) 国内外の工学・科学技術政策、教育等に関する調査研究、提言活動を積極的に行う。
- 2) 国内外における学際・業際的及び新技術領域の活動を推進することに資する調査研究等の諸活動を積極的に行う。
- 3) 国内外の工学、科学技術の健全な進歩発展に寄与するための教育活動、及び一般に対する普及、啓発活動を推進する。
- 4) 上記の諸活動を効果的に実施するため、国内外の諸団体、特に海外の工学アカデミーとの連携を強化し、共同事業等を推進する。
- 5) 上記の一環として国際工学アカデミー連合の主要メンバーの一員として、特に近隣諸国における工学アカデミーの設立に対して、良きアドバイザーとしての責務を果たす。

2000年7月19日理事会

ご挨拶



先ずは、熊本地震でお亡くなりになった方々に心からご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に深甚なるお見舞いを申し上げます。

さて日本工学アカデミーは、これまで様々な活動により成果を挙げてきました。とくに近年、国際交流や支部活動にいろいろな進展が見られました。これらは各報告をご参照いただくことにして、ここでは政策提言についてのみ触れたと思います。

実は特記に値する政策提言の実績があります。「東電福島第一原発汚染水問題の対応へ向けた日本工学アカデミーからの提言」(2014.5.27)と、「インフラのメンテナンスマネジメントシステムの構築」(2014.11.27)です。その後も提言に向けた議論や動きはありましたが、実現に至っておりません。

日本では、かねてより科学者/専門家集団による助言を含む提言機能の弱さが指摘されてきました。少なくとも欧米の動向を踏まえれば、科学や技術に関するアカデミーの政策提言の必要性は、これまでもそうでしたが、今後ますます大きくなることは間違いないでしょう。政治の世界では、とくにわが国では、しばしば提言集団の利害に関する陳情と受け取られがちであ

ることは残念であります。これには科学者/専門家集団側にも反省すべき点があるように思います。その他これまでの経緯や慣行もあり、必ずしも容易ではありませんが、小宮山会長時代の前例や流れを参考にして、健全でかつ社会や政治の世界からも評価される政策提言を目指していきたいと考えます。その際、日本工学アカデミーが非政府機関であることは、大きいメリットの一つではないでしょうか。

ところで今回の会長選出は、一言でいえば難産でした。小宮山会長のご苦勞を、少なくとも周りにはそう見えました。難産が好ましいとは思いませんが、他方、経過や評価が不明な選出があるとすれば、それもまた褒められることではありません。今回を教訓として、また昨今の世間の流れから人事の透明性が求められている現状に鑑み、名誉会長(前会長)を委員長とする、会長候補者推薦委員会を設置していただきました。

日本工学アカデミーは、諸先輩が築かれた伝統の継続とそれに根ざした発展が求められます。副会長をはじめとする役員の方皆さん、委員の方皆さん、支部役員の方皆さん、そして事務局の方皆さんとともに、人類社会に資するアカデミーを目指して、汗を流して参ります。会員各位におかれましては、さらなるご支援を賜りたく、また忌憚ないご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

2016年5月31日
(公社)日本工学アカデミー 会長

阿部博之
阿部博之

2015年度 事業報告

I. 全体概要

政策委員会、国際委員会、広報委員会の機能を企画・運営委員会に集約し、政策委員会のタスクフォース（TF）と国際委員会のタスクグループ（TG）はそれぞれ理事会に直属とし、広報委員会の編集業務も編集会議（委員会の扱い）に移行させた。

国際関係では、日米先端工学（JAFOE）シンポジウムが隔年開催に変更され、2015年度は開催がなかった。次回は2016年6月に米国で開催される。また日豪若手研究者交流促進事業（ERLEP）の第4ラウンドが始まり、2015年10月19日から30日に日本から豪州へ9名を派遣した。東アジア工学アカデミー円卓会議（EA-RTM）は引き続き中国・武漢で2015年11月2日から3日に開催された。次回は福岡で2016年8月31日から9月1日に開催される。また国際工学アカデミー連合（CAETS）大会がニューデリーで2015年11月12日から15日に開催された。次回は2016年9月12日から15日にロンドンでの開催が予定されている。

国内では、各委員会とプロジェクトの活動を進め、公開シンポジウムを開催した。2015年6月2日に総会特別講演会、2016年2月6日に名古屋地区講演会、2016年3月22日に談話サロンをそれぞれ開催した。また北海道・東北支部では3回、九州支部では2回の支部講演会や出張講義を実施した。企画・運営委員会において「EJ 2020ビジョン」と「技術館（仮称）構想」を作成した。

各委員会、各プロジェクト、各支部・地区活動の詳細を以下に詳述する。

II. 個別報告

1. 総会

2015年6月2日にホテルJALシティ田町「瑞祥の間」にて第3回（通算第19回）定時社員総会を開催した。

2014年度事業報告・収支決算書提案、2015年

度事業計画・収支予算書報告を決議した。

・当日出席正会員 41名、表決委任正会員 351名、合計 392名

2. 理事会

年4回の通常理事会を開催し、本アカデミーの運営にかかわる重要事項について審議・決定した。2015年度の主な議決事項は、総会議案の承認（2014年度事業報告と収支決算の提案、2015年度事業計画と収支予算の報告）、2016年度事業計画と収支予算の決定、正会員の入会の承認、賛助会員の入会の承認、会員選考委員の承認、提言発表の承認、委員長交代の承認、特別委員会・プロジェクトの新設・延長の承認などであった。

報告事項として、各委員会・プロジェクト・支部・地区活動などの報告、他団体主催行事に対する協賛・後援依頼承認などの報告がなされた。また代表理事（会長）と業務執行理事（常務理事）の業務報告が8月と2月に実施された。

3. 委員会

(1) 会員選考委員会

理事会の開催頻度に合わせて、委員会を年4回開催し正会員の入会審査を行った。顕著な業績を持ちながら入会していない有識者が多いことから、分野別に会員候補者を発掘する作業を行った。

これらの取り組みにより、2015年度は43名の正会員入会を得たが、29名が退会し、19名が逝去され、年度末正会員数は600名に減じた。

	正会員(人)	賛助会員(社・団体)	客員会員(人)
2015年度初	605	29	19
入会	43	1	0
退会	29	0	0
逝去	19	-	2
2015年度末	600	30	17

・会員選考委員長：松本洋一郎
幹事：石原 直、亀井信一

- 第1分野主査：松本洋一郎
委員：内山 勝、岡本一雄、白鳥正樹、村上敬宜
- 第2分野主査：尾形仁士
委員：石原 直、保立和夫、村上篤道（10/23逝去）
- 第3分野主査：小関敏彦
委員：月橋文孝、西嶋昭生、松宮 徹
- 第4分野主査：小松利光
委員：安達 洋、小澤良夫、嘉門雅史、野城智也
- 第5分野主査：神本正行
委員：大久保泰邦、木下幹康、島村常男、辰巳 敬
- 第6分野主査：桑原 裕
委員：今井秀孝、小玉喜三郎
- 第7分野主査：長棟輝行
委員：関 実、中西友子、茂木美智子、渡辺公綱
- 第8分野主査：永野 博
委員：亀井信一、小林信一、橋本正洋、松見芳男

(2) 企画・運営委員会

さらに理事会で議論を重ね、「技術館（仮称）構想」を検討する中で、「科学技術館の今後の在り方に関する検討会」を三館（国立科学博物館、日本科学未来館、科学技術館）の館長も交えた有識者会議として設置し、基本構想を固め関係者からも高く評価された。

これまでどおり「工学アカデミーの基本ミッション」として次の3点を掲げて、本アカデミーの社会的機能を、①地域活性化、②国際交流、③人材育成、④情報発信を四本柱として継続して推進した。

1. Engineering Design & Maintenance
2. Engineering Ethics & Education
3. Social System Innovation & Engineering Sustainability

また2015年度は下記の談話サロンと公開シンポジウムを開催した。各委員会・プロジェクトの企画を得て多様な開催となった。

1. 総会特別講演

日 時：2015.6.2（火）

場 所：ホテルJALシティ田町
テーマ：「流域管理の革新的概念の創出と水災害軽減への貢献」

対 象：会員・賛助会員・招待者（60名）

2. ローマクラブ共同会長 名古屋大学名誉博士 称号授与記念イベント

（トークセッション：中部地区講演会）

日 時：2016.2.6（土）

場 所：名古屋大学ESホール

テーマ：「ローマクラブ会員とノーベル賞受賞者との対話」

対 象：会員・賛助会員・学生・一般（180名）

3. 第180回談話サロン

日 時：2016.3.22（火）

場 所：東京大学山上会館

テーマ：「我が国原子力の将来と原子力規制の在り方を問う」

対 象：会員・賛助会員・一般（70名）

・企画・運営委員長：小宮山宏

委員長代理：池田駿介

委員：有信陸弘、石原 直、亀井信一、玖野峰也、田中秀雄、長井 寿、永野 博、林 秀樹、松見芳男、松本洋一郎、渡辺美代子

(3) 安全知と安全学委員会

従来どおり安全工学フォーラムを開催することとし、2016年3月1日に第11回安全工学フォーラムを開催した。産業界をはじめとして研究所や大学などから、50名の参加があった。

・委員長：向殿政男

*非会員

副委員長：松岡 猛、*新井 充

幹事：*高橋 聖、*鳥居塚崇、*吉村健志

委員：柴田 碧、*池田博康、*坂井修一、

*畑中綾子、*藤本 滋

(4) 編集会議

EAJ内部のコミュニケーションの活発化を目指した内部向け広報活動としては、EAJ NEWSを理事会の開催頻度に合わせて年4回発行し、さらに会長の年頭ご挨拶を正月に会員に届けるため新年特別号を発行した。また「活動報告2014/2015」を発行した。

・主査：田中秀雄

副主査：林 秀樹

委員：館 暲、中西友子、茂木美智子

(5) CAETS実行委員会

2015年10月12日から15日にニューデリーで開催されたCAETS大会に参加した。この機会に日英の工学アカデミーで会談を持ち、日英交流の促進を約した。また韓国から二国間協力の打診を受けた。日米ではJAFOEシンポジウムの継続を協議した。日中ではEA-RTM（武漢）の協力を約した。日豪でもERLEPの推進を再度合意した。

・委員長：長井 寿

(6) ERLEP実行委員会

第4巡目の交流が始まり、2015年10月19日からの2週間に亘って日本から9名の若手研究者・技術者を豪州各地に送り出した。在日豪州大使館での事前説明会、キャンベラでのオリエンテーション、シドニーでの成果速報、さらには帰朝報告会（EAJ会員との交流を求めて賀詞交歓会の日に実施）を成功裏に実施した。第4巡目の後半となる、豪州からの8名の若手研究者・技術者の2016年11月受け入れを進めるべく準備を開始した。

・委員長：長井 寿

(7) JAFOE実行委員会

2016年6月に米国・アーバインで開催される第13回JAFOEシンポジウムの日本側運営委員長を選任し、中島義和運営委員長を中心に全米工学アカデミー側と協議を重ねた。実施テーマ毎の運営委員とスピーカを選任し、さらに招待討議者の募集と選定を行った。

・委員長：村上秀之

(8) EA-RTM実行委員会

今回で4回目となる会員対象の日中韓の技術協力に関する意識調査のアンケート案を作成し、中韓の工学アカデミーとブラッシュアップした。2016年8月末から福岡で開催する円卓会議の併催シンポジウムプログラム案を煮詰めて、日本側の分担体制を構築した。

・委員長：三島 望

(9) STS forum YELS実行委員会

京都でのSTS forumの際に工学アカデミー会長会議が併催されるので、若手研究者および技

術者にもSTS forumに参加して貰い、若手同士の交流の機会とすべく、Young Engineering Leader Symposium (YELS) を新たに開始した。初年度は英国1名、米国2名、タイ3名、日本国3名の若手とメンターが参加し、2015年10月6日に若手Symposium、7日に琵琶湖疏水をはじめとするテクニカルツアーを開催し、南禅寺の湯豆腐も堪能するカルチャーツアーも加味して好評なスタートを切った。

・委員長：金谷一朗

(10) 日英交流委員会

2015年が英国Innovation is GREATキャンペーン年となることから、2015年2月にはケンブリッジ公ウイリアム王子が来日されるなど、日英のイベントが続いた。また2015年12月には国際ロボット展がビッグサイトで開催され、来日するロボット研究者・技術者が多く、駐日英国大使館と協力して「日英ロボティクスワークショップ (WS)」を11月30日と12月1日に開催した。さらには12月2日からの国際ロボット展に英国大使館と協力してエレキテル他の展示を行った。2016年には英国での交流が期待されている。

・暫定委員長：長井 寿

4. プロジェクト (旧称：作業部会)

(1) 根本的エンジニアリングの普及啓発

企業向けには、メタエンジニアリングを使った産業創出のコンサルティング(3社)、若手向けにはワールドカフェ(1回)、ワークショップ(3回)、学生向けには、特別講義(1大学)、大学紀要(3件)、学会では、電気学会、研究・イノベーション学会、PICMET、HISTELCONで論文発表(5件)を実施し、メタエンジニアリングの普及啓発を行った。メタエンジニアリングの教科書を発行した(3冊)。日本工学アカデミー主催/共催講演会を行った(2回)。日本工学アカデミーのプロジェクトとしては本年度で終了するが、科学研究費を受託し、普及活動の継続を行う。2016年度中に国際シンポジウムを開催予定である。

・リーダー：鈴木 浩

*非会員

サブリーダー：大来雄二

メンバー：池田佳和、伊藤裕子、小松康俊、
松見芳男、*大谷 竜、*勝又一郎、
*佐藤千恵、*永田宇征

(2) 電力流通システム

海外での電力流通設備の状況の調査が進み、また2016年4月から日本でも小売り事業の全面自由化が始まったので、その影響も見ながら、電力流通設備の今後の課題等を、ポイントを絞って2016年上期に報告する。

最終報告書の骨子案：①電力システム改革案の概要 ②電力システムの特徴 ③海外の状況 ④海外の実績から見た日本の留意点を予定している。

- ・リーダー：臼田誠次郎 *非会員
- メンバー：大来雄二、玖野峰也、田中秀雄、
*栗原郁夫

(3) 原子力事故からの再生

プロジェクトメンバーでの討議を経て、福島事故の総括と原子力規制の在り方について理事会に報告をした。その報告を踏まえ、第180回談話サロン「我が国原子力の将来と原子力規制の在り方を問う」を、東京大学山上会館で2016年3月22日に実施した。引き続き福島事故の総括と原子力規制の在り方に関わる課題について検討を行う。

- ・リーダー：山脇道夫 *非会員
- メンバー：亀井信一、奈良林直、松井一秋、
*澤田 隆、*諸葛宗男

(4) バイオマス・アジア

メンバーでの討議の成果を活かし、(株)大和三光製作所から「インドネシアでのバイオマスを利用した半炭化システムによる地球温暖化ガス削減可能性調査」を受託し、現地調査の上で2016年3月7日に報告書を提出した。

- ・リーダー：西嶋昭生 *非会員
- 幹事：佐村秀夫
- メンバー：伊藤 叡、神本正行、佐伯とも子、
諏訪 基、羽野 忠、山田 守、
*澤 一誠

(5) 若手部会

EAJへの個人寄付金を原資に、2015年8月2日から3日に「International Symposium on Engineering & Ecology」を開催し、20名が参

加した。会場には徳島県上勝町を選び、過疎の町での暮らしの楽しさと苦しさを議論し合った。

次年度以降の取り組みとして、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Mathematics) をテーマにUnconferenceを年4回の規模で実施すべく検討を開始した。

- ・西地区リーダー：金谷一朗
- 東地区リーダー：中島義和

(6) 自然エネルギーのガバナンス

2015年7月14日に会合を開催し、小規模地熱、太陽光発電、風力、バイオマス、小水力などの自然エネルギーのガバナンスに関する課題について議論した。日本学術会議における分散型再生可能エネルギーのガバナンス小委員会と連携して成果を公表する予定である。

- ・リーダー：大久保泰邦 *非会員
- 幹事：*山本達也
- メンバー：林 農、武藤成生、*大里和己、
*北川尚美、*久保田宏、*松島 潤

5. 支部・地区活動

(1) 北海道・東北支部

2015.7.17 北海道大学工学部（札幌市）

講演：佐藤 努氏「地質学から見た工学教育への提言」

瀬戸口剛氏「積雪寒冷都市において風雪の影響を低減する都市デザインシミュレーション手法の研究」

2015.9.28 岩手大学復興祈念銀河ホール（盛岡市）

講演：岩渕 明氏「三陸復興・地域創生に対する岩手大学の取り組み」

吉澤正人氏「超伝導の魅力～基礎研究から応用まで～」

2015.12.10 東北大学青葉山キャンパスカテールサイエンスキャンパスホール（仙台市）

講演：滝澤博胤氏「1. 未来社会の課題解決に向けて～東北大学工学研究科の研究推進 2. マイクロ波を利用した新しい材料プロセッシング」

吉岡敏明氏「1. 環境科学研究を通した

人材育成の可能性 2. 循環型社会構築
のための化学プロセス」

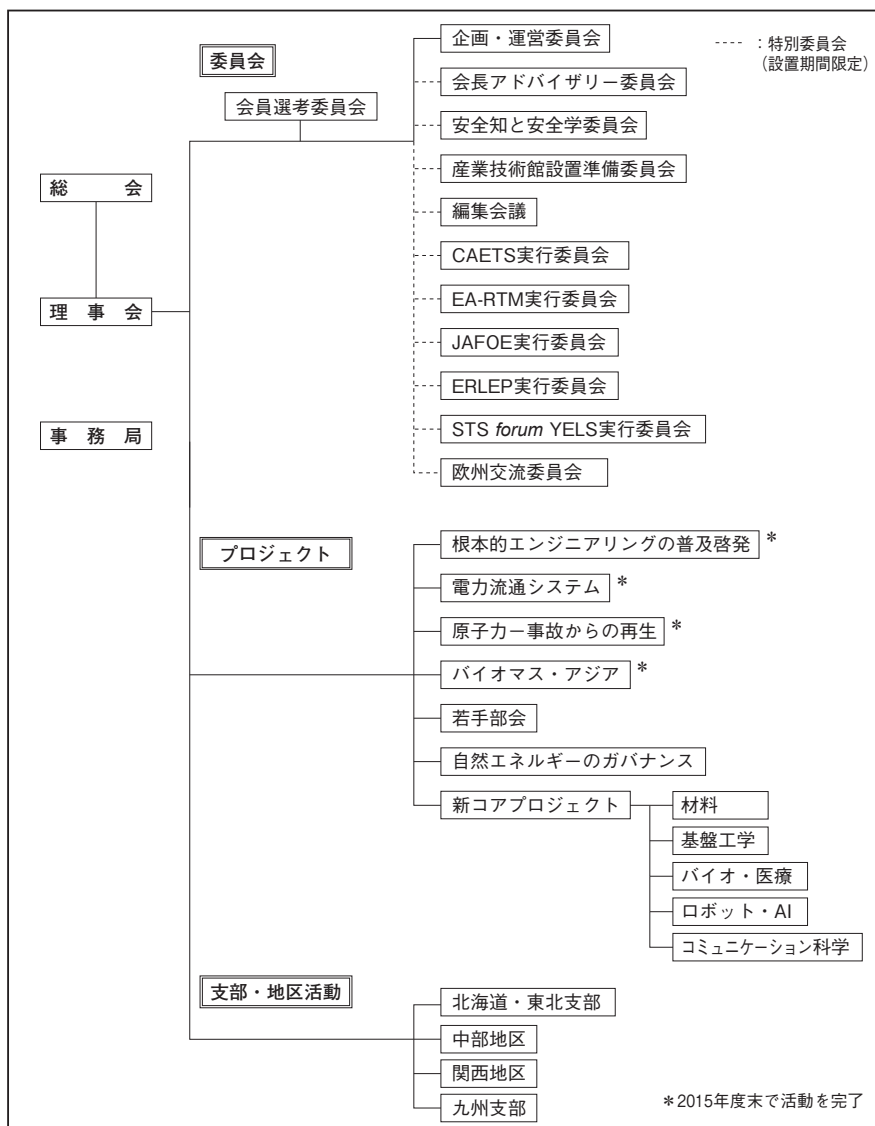
(2) 九州支部

2015.5.21 北九州学術研究都市（北九州市）
「資源開発に関する国際活動と工学の役割」
講演：吉塚和治氏「南米におけるリチウム資源開発プロジェクト」
白井義人氏「九州工大マレーシア拠点（MSSC）におけるバイオマス再資源化プロジェクト」
佐藤涼一氏「チリ共和国シエラゴルダ

鉱山を例にした最近の銅鉱山開発について」

2016.1.15 福岡県立京都高等学校（行橋市）
高等学校出張講演会「工学・科学技術は如何に私たちの生活を豊かにしているか」
講演：早瀬修二氏「太陽光発電が作る未来社会」
尾家祐二氏「情報工学の技術が切り拓く未来」
田中敬二氏「ナノマテリアル開発と社会への貢献」

組織・運営



2015年度 役員名簿

<役員>

理事・会長	小宮山 宏			
理事・副会長	阿部 博之	梶山 千里	中西 友子	小泉 英明
理 事	有信 睦弘	有本 建男	大久保 泰邦	梶村 皓二
	亀井 信一	嘉門 雅史	岸浪 建史	田中 秀雄
	田中 正人	永野 博	羽野 忠	林 秀樹
	林 良嗣	日野 光兀	松見 芳男	松本 洋一郎
	宮城 光信	向殿 政男	茂木 美智子	矢川 元基
	野城 智也	山田 淳	渡辺 美代子	
専務理事	池田 駿介			
常務理事	玖野 峰也	長井 寿		
監 事	松宮 徹	村上 正紀		

<名誉会長・顧問>

最高顧問	西澤 潤一	吉川 弘之		
名誉会長	中原 恒雄 (2016年1月8日逝去)			
顧 問	平山 博 (2015年6月29日逝去)			
	堀 幸夫	青山 博之	國武 豊喜	伊東 諠
	三井 恒夫	川崎 雅弘	種市 健	神山 新一
	飯塚 幸三	御園生 誠	柘植 綾夫	松尾 友矩

2016年3月31日現在

2015年度 収支決算

【全体概況】

従来どおり収支計算書に準拠し全体像をまとめると下表のようになる。2015年度下期に業務受託（1,850千円）および賛助会員の増加があり、事業活動収入が予算対比2,525千円増加した。一方で業務受託によるプロジェクト費の増加およびInternational Symposium on Engineering and Ecology、Young Engineering Leader Symposium、中部地区トークセッションの開

催を新規に実施し、事業活動支出は予算対比814千円増加したので、事業活動収支は予算対比1,711千円の改善となった。投資活動支出（退職給付引当預金取得支出のみ）が予算対比66千円増加し、使用しなかった予備費を含めて、当期収支差額は予算対比2,645千円の改善となった。その結果、次期繰越収支差額も予算対比2,645千円改善し、23,089千円となった。

(単位：千円)

	A) 2015年度予算	B) 2015年度決算	B) - A) 差額
事業活動収入	41,971	44,496	2,525
事業活動支出	48,330	49,144	814
事業活動収支差額	△6,359	△4,648	1,711
投資活動収支差額	△669	△735	△66
予備費支出	△1,000	0	1,000
当期収支差額	△8,028	△5,383	2,645
前期繰越収支差額	28,472	28,472	0
次期繰越収支差額	20,444	23,089	2,645

【事業活動収入】

2015年度は、業務受託収入が予算対比1,850千円増加し、事業活動収入は予算対比2,525千円増加した。

【事業活動支出】

業務受託に対応してプロジェクト費支出が増加し、さらには政策調査費（Young Engineering Leader Symposium開催）、新規活動費（International Symposium on Engineering and Ecology開催）および地区活動費（中部地区トークセッション開催）でも増加があり、事業活動支出は予算対比814千円の増加となった。

【収支差額】

以上の結果、事業活動収支は予算対比で1,711千円の改善となった。

さらに投資活動支出（退職給付引当預金取得支出のみ）が予算対比66千円悪化したことと、予備費を支出しなかったことから、収支差額は予算対比2,645千円改善した。

【繰越収支差額】

以上から次期繰越収支差額は予算対比で2,645千円の改善となり、23,089千円となった。

2016年度 事業計画

I. EAJの基本ミッション

従来は自明の理として明言されてこなかった「工学アカデミーの基本ミッション」について議論を進め下記の三点に絞り込んだ。

1. Engineering Design & Maintenance
2. Engineering Ethics & Education
3. Social System Innovation & Engineering Sustainability

さらに本アカデミーの目的を「これからの社会を『工学する』」とし、「Engineer the Future」を掲げる。

II. 活動計画概要

4項目の社会的機能を達成すべく、下表に記載する諸活動を推進する。

1. 地域活性化

- ・九州支部および北海道・東北支部での支部活動強化と支部間交流会の実施
- ・関西地区および中部地区での本部ないし支部設立の準備
- ・北陸・信越地区と中国・四国地区での地区活動の強化
- ・「プラチナ構想ネットワーク」との連携

2. 国際交流

- ・世界 (CAETS) と東アジア (EA-RTM) での連携強化
- ・二国間 (日米JAFOE、日豪ERLEP、日韓、日泰他) 若手交流の促進
- ・日米・日英・日仏・日独・日瑞 (日瑞基金を含め)・日泰等の二国間シンポジウムの開催
- ・STS forum 工学アカデミー会長会議で Young Engineering Leader Symposium (YELS) を開催

3. 人づくり

- ・政策提言の発信

- ・科学技術リーダー人材の育成と産業技術館 (仮称) 構想の推進
 - ・EAJ若手部会からYoung Academy of Engineeringの創設へ
 - ・産業界と連携して、「師弟相互の学びの場」としての工学アカデミーを志向
- ### 4. 情報発信
- ・提言、EAJ NEWS、EAJ Information などの発信
 - ・談話サロン (公開シンポジウム) の継続的な開催
 - ・国際シンポジウム (特に若手部会から) の開催
 - ・公益社団法人の特長を生かして、寄付活動を促進

以上の諸活動を推進する体制を以下のように強化する。

1. 常置委員会と特別委員会

常置委員会として、会員選考委員会と企画・運営委員会を置き、国内外の会務を統括する。

特別委員会として、会長アドバイザー委員会、安全知と安全学委員会、産業技術館設置準備委員会、編集会議、CAETS実行委員会、EA-RTM実行委員会、JAFOE実行委員会、ERLEP実行委員会、STS forum YELS実行委員会、欧州交流委員会を置き、これにより会員選考と企画・運営の両委員会と設置期間を限定した特別委員会を理事会の下に設置し、トップダウンの形で重要な課題に取り組む。

2. プロジェクト活動

会員からのボトムアップの形で重要な課題に取り組む。「若手部会」「自然エネルギーのガバナンス」に加えて、新規に「新コアプロジェクト」を設置すると共に、さらに新規プロジェクトを募集する。

3. 産業界との連携

会長アドバイザーからのご意見を踏まえ、以下の方針を産業界と協議の上で推進する。
「メンテナンスとイノベーションに依る21世紀の産業と社会の再生」

- 1) 産学の緊張した連携と社会技術イノベーション
- 2) 人材
- 3) 「工学」の認知度向上
- 4) 成功事例分析

これらを推進するために、産業技術館設置準備委員会で具体策を検討する。財政健全化の取り組みも併せて実施する。

4. 各委員会の活動

(1) 会員選考委員会 (委員長：松本洋一郎)

理事会の開催頻度に合わせ、年度内に委員会を4回開催し、推薦された会員候補者の選考を行い、適格と認めた候補者を理事会に推薦する。

それに加えて、本アカデミー役員、会員の協力を得つつ、適格な会員候補者を発掘し、会員資格のレベルを落とすことなく、会員拡大を図る。特に、①若手、女性、産業界、工学の近接領域の会員発掘を図る。②会員のいないあるいは少ない地域の会員拡大を図る。

“Young Academy of Engineering”の創設を睨みながら本アカデミーの若手会員制度を検討すると共に、終身会員制度の普及を目指す。

(2) 企画・運営委員会

(委員長：阿部博之、委員長代理：池田駿介)

本アカデミーの基本方針や重要課題につき企画・調査・検討し、理事会に提議する。また、会長、理事会からの諮問に応じて調査・検討し答申する。プロジェクトをはじめとする実践的活動を推進する。工学アカデミーの基本的な使命を確認しつつ、組織存続の要となる財政健全化に向け、正会員と賛助会員の拡大および外部資金と寄付金の獲得の具体的な施策を企画・立案する。国内外のシームレスな活動を強化するために、政策・国際・広報の活動を企画・運営委員会で一括運営する。

(3) 会長アドバイザー委員会

(委員長：阿部博之)

主に産業界のアドバイザーから本会の在り方について会長にアドバイスをいただく。

(4) 安全知と安全学委員会

(委員長：向殿政男)

これまで11回実施してきた「安全工学フォーラム」の開催を継続し、安全学という新しい安全に関する学問を構築することを目指す。また、我が国を安全の価値を重視する国づくりと、我が国が世界に安全の面から貢献できる道を開くことを目指す。

(5) 産業技術館設置準備委員会

(委員長：小宮山宏、同専門部会長：池田駿介)

工学の在り方を深め、初等・中等・高等ならびに社会人教育の場となる「産業技術館(仮称)」を設置し、日本のみならず世界との交流センターとする。

(6) 編集会議

(主査：田中秀雄、副主査：林 秀樹)

EAJ NEWS他の編集を行うと共にデジタル化を推進する。

(7) CAETS実行委員会 (委員長：長井 寿)

9月12-15日にロンドンで開催されるCAETS大会に出席し報告する。

(8) EA-RTM実行委員会 (委員長：三島 望)

8月31日から9月1日に福岡で開催するEA-RTM会議を主催し、中国工程院(CAE)および韓国工学翰林院(NAEK)と三国間交流を推進する。

(9) JAFEO実行委員会 (委員長：村上秀之)

6月16-18日に米国・アーバインで開催されるシンポジウムに若手研究者・技術者30名で参加し、NAEが選出する米国の若手30名と合同でイベントを開催する。

(10) ERLEP実行委員会 (委員長：長井 寿)

日本学術振興会(JSPS)の支援を得て11月21日から12月2日まで、豪州理工学アカデミー(ATSE)推薦の豪州の若手研究者・技術者8名を日本に受け入れる。

(11) STS forum YELS実行委員会

(委員長：金谷一朗)

10月4-5日にSTS forumの機会に京都で若

手エンジニアリーダーのシンポジウムを開催する。

(12) 欧州交流委員会

(暫定委員長：長井 寿、田中秀雄)

欧州主要国との交流を推進する。展開に応じ、二国間的定期交流事業も展望する。英国とは、2015年11月30日から12月1日に英国大使館で開催したロボティクスに関する日英交流および12月2-5日のロボット展出展を踏まえて、英国訪問を含めたイギリス王立工学アカデミー(RAEng)との交流の継続を検討する。ドイツとは、インダストリー4.0のヒヤリングを通して、acatechとの交流を推進する。また、オーストリア・グラーツで開催されるオープンイノベーションの国際シンポジウムに参加し、欧州との交流を推進する。その他、フランス、スウェーデンなどと交流を追求する。

5. 各プロジェクトの活動

(1) 若手部会 (西地区リーダー：金谷一朗 東地区リーダー：中島義和)

JAFOE、ERLEP、STS *forum* YELSなどに参加する45歳までの若手を中心にした活動を行う。特にJAFOE、ERLEP、YELSの参加経験者を中心にEAJ若手部会のイニシアティブで「第2回International Symposium on Engineering & Sustainability」を開催する。

(2) 自然エネルギーのガバナンス

(リーダー：大久保泰邦)

分散型エネルギーの場合、地域特有の課題となることから、エネルギーガバナンスは中央政府だけでなく、自治体、地域コミュニティー、家庭、個人にとって必要となる。

本プロジェクトでは原子力開発に関わる放射性物質の影響、化石燃料の実態、多様なエネルギー供給と社会との関係を研究し、その成果を日本学術会議と連携してシンポジウムを開催し、政府、自治体、地域コミュニティーで活躍する次世代に対して情報発信を行い、日本のエネルギーガバナンス能力向上に貢献する。

(3) 新コアプロジェクト

(統括リーダー：長井 寿)

日本工学アカデミーが取り組むべき5つのコ

アテーマについて、先見的なメッセージを発信して、さらに発展させる。

(3-1) 材料プロジェクト (リーダー：加藤隆史)

化石資源から脱却できるのかをキーワードに議論を展開する。

(3-2) 基盤工学プロジェクト

(リーダー：塚原健一、谷口栄一)

持続的メンテナンスはできるのかをキーワードに議論を展開する。

(3-3) バイオ・医療プロジェクト

(リーダー：片岡一則)

高度医療を誰でも享受できるかをキーワードに議論を展開する。

(3-4) ロボット・AIプロジェクト

(リーダー：舘 暉)

労働はなくなるかをキーワードに議論を展開する。

(3-5) コミュニケーション科学プロジェクト

(リーダー：金谷一朗)

情報の壁は取り払えるのかをキーワードに議論を展開する。

(4) 新規プロジェクト

適宜募集する。

6. 支部と地区の活動

(1) 北海道・東北支部

会員・非会員の交流と新会員加入のための活動を目的として、年次計画で支部内各地での講演会・懇親会を企画し、工学アカデミーの支部活動の活性化に貢献する。

(2) 中部地区

2016年2月6日の中部地区講演会・交流会を踏まえ、中部支部立ち上げを推進する。

(3) 関西地区

関西本部(仮称)の設立に向けて、地区講演会などのイベントを開催する。

(4) 九州支部

九州支部の会員増強と会員・非会員間の情報の共有を目的として、支部シンポジウムを開催する。さらに日本の工学分野で将来実質的にリーダーとなる人材育成に資する活動を行う。

(5) 地区活動強化推進施策

中国・四国地区および北陸・信越地区での活

動計画として、地区講演会を開催し、地域の活性化の足がかりと会員増強に努める。

同様にこれまでも会員ゼロの県をなくすこと

を目標としてきたが、まだ達成していないので、今後も努力を継続する。

国際協力とプロジェクト等の関係（事例）

	国際工学アカデミー連合 (CAETS)	東アジア工学アカデミー円卓会議 (EA-RTM)	日米先端工学シンポジウム (JAFOE)	日豪若手研究者交流促進事業 (ERLEP)	若手工学リーダーシップポジウム (YELS)	欧州交流委員会：日英交流	欧州交流委員会：日独交流	欧州交流委員会：日韓交流
EAJの在り方研究（新学理と新産業）	ウェルビーイング（新学理）	科学技術イノベーション			アンカンファレンス（若手参画）			オープンイノベーション（新産業）
材料		先端材料と先端加工技術	ナノテク、3Dプリンタ	ナノテク、エネルギー		再生可能エネルギー		
基盤工学		メンテナンス	モビリティ					
バイオ・医療		長寿社会		ヘルスケア				
ロボット・AI			ビッグデータ	ICT		ロボティクス	インダストリー 4.0	
コミュニケーション科学	ウェルビーイング		異分野交流		アンカンファレンス			
若手部会			若手交流	若手交流	若手交流			

賛助会員

（入会順）

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 日本電気株式会社 | 16 株式会社NTTドコモ |
| 2 住友電気工業株式会社 | 17 日産自動車株式会社 |
| 3 富士通株式会社 | 18 一般財団法人新技術振興渡辺記念会 |
| 4 トヨタ自動車株式会社 | 19 株式会社神戸製鋼所 |
| 5 大成建設株式会社 | 20 東レ株式会社 |
| 6 鹿島建設株式会社 | 21 国立研究開発法人科学技術振興機構 |
| 7 ソニー株式会社 | 22 株式会社三菱総合研究所 |
| 8 三菱重工業株式会社 | 23 日本工装株式会社 |
| 9 株式会社日立製作所 | 24 株式会社IHI |
| 10 三菱電機株式会社 | 25 アイシン精機株式会社 |
| 11 東日本旅客鉄道株式会社 | 26 KDDI株式会社 |
| 12 日本電信電話株式会社 | 27 株式会社島津製作所 |
| 13 株式会社東芝 | 28 株式会社建設技術研究所 |
| 14 三菱マテリアル株式会社 | 29 日本工営株式会社 |
| 15 株式会社NTTデータ | 30 住友化学株式会社 |

以上30社・団体
2016年5月31日現在

2016年度 役員名簿

2016年5月31日現在

理事・会長	阿部 博之	国立研究開発法人科学技術振興機構特別顧問	
理事・上級副会長	小泉 英明	(株)日立製作所役員待遇フェロー	
理事・副会長	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授	
理事・副会長	宮城 光信	東北大学名誉教授	
理事・副会長	谷口 功	(独)国立高等専門学校機構理事長	
理事・副会長	松本 洋一郎	国立研究開発法人理化学研究所理事	
専務理事	池田 駿介	(株)建設技術研究所国土文化研究所研究顧問	
常務理事	長井 寿	国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点特命研究員	
常務理事	田中 秀雄	(公社)日本工学アカデミー常務理事	
理事	有川 節夫	九州大学名誉教授	
理事	有本 建男	政策研究大学院大学教授	
理事	王 碩玉	高知工科大学システム工学群(ロボット工学専攻)教授	
理事	大久保 泰邦	国立研究開発法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 テクニカルスタッフ	
理事	太田 光一	豊田合成(株)特任顧問	
理事	岡田 益男	八戸工業高等専門学校校長	
理事	小野寺 正	KDDI(株)取締役会長	
理事	亀井 信一	(株)三菱総合研究所人間・生活研究本部本部長	
理事	嘉門 雅史	京都大学名誉教授	
理事	木下 幹康	東京大学人工物工学研究センター客員研究員	
理事	小堀 洋美	東京都市大学環境学部教授	
理事	中村 道治	国立研究開発法人科学技術振興機構顧問	
理事	永野 博	国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター 特任フェロー	
理事	林 良嗣	中部大学総合工学研究所教授	
理事	馬場 直志	室蘭工業大学理事(連携担当)・副学長	
理事	日野 伸一	九州大学副学長・大学院工学研究院教授	
理事	日野 光兀	東北大学名誉教授	
理事	松見 芳男	大阪大学ベンチャーキャピタル(株)社長	
理事	向殿 政男	明治大学名誉教授	
理事	村上 秀之	国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点表面界面 キネティックスグループグループリーダー	
理事	野城 智也	東京大学生産技術研究所教授	
理事	山田 淳	九州大学大学院工学研究院教授	
理事	渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構執行役 (理数学習推進・科学コミュニケーション担当)	
			以上 理事32名
監事	村上 正紀	立命館理事補佐・立命館大学特別招聘研究教授	
監事	玖野 峰也	(一社)日瑞基金会長	
			以上 監事2名
最高顧問	西澤 潤一	吉川 弘之	
名誉会長	小宮山 宏		
顧問	堀 幸夫	青山 博之	國武 豊喜
	川崎 雅弘	種市 健	神山 新一
	柘植 綾夫	松尾 友矩	梶山 千里
			伊東 諠
			飯塚 幸三
			三井 恒夫
			御園生 誠
			以上

2016年度 収支予算

【基本方針】

2016年度は、原則として2015年度の実績をベースに予算枠を設定した。予算の執行段階での

様々な状況の変化に対しては、予備費の活用と必要に応じて理事会決定で対応する。

(単位：千円)

	A) 2016年度予算	B) 2015年度決算	A) - B) 差額
事業活動収入	51,278	44,496	6,782
事業活動支出	55,430	49,144	6,286
事業活動収支差額	△4,152	△4,648	496
投資活動収支差額	△735	△735	0
予備費支出	△1,000	0	△1,000
当期収支差額	△5,887	△5,383	△504
次期繰越収支差額	17,202	23,089	△5,887

【事業活動収入】

2016年度は、負担金収入4,000千円（JAFOE開催）の他、会費収入の増加を見込んだ。

【事業活動支出】

2016年度は国際活動費として12,000千円を見込んだが、JAFOE開催費8,220千円およびEA-RTMの福岡開催費他を含む。なお開催頻度が毎年（CAETS）、隔年（JAFOE）、三年毎（EA-RTM）になるため、特に2016年度は国際活動費が多くなるが、均すと毎年5,000千円程度の国際活動費（EAJ負担分として）が必要である。

【収支差額】

これらにより事業活動支出は4,152千円の赤字となり、前年度実績対比496千円の改善となる。また投資活動支出（退職給付引当預金取得支出のみ）として735千円、予備費支出として1,000千円を計上する。従って当期収支差額は、前年度実績対比504千円の悪化と横ばいで5,887千円の赤字となる。

【繰越収支差額】

その結果、次期繰越収支差額は17,202千円になり、当面の活動に必要な繰越金は確保できるが、3年弱以内に抜本的な改善が必要である。

編集発行・2016年5月31日



〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館4F
TEL:(03)5442-0481 FAX:(03)5442-0485
E-mail:academy@ej.or.jp
URL:<http://www.eaj.or.jp/>